

1～12 頁。

ハムレットが復讐を躊躇したのは、“honour”を重んじたからである。“To be or not to be. . .”に始まる独白では“nobler”に注目した。フォーティンブラスの軍隊の目撃時にホレーショとの会話でも“honour”へのこだわりをハムレットは見せている事を中心に論じた。ハムレット、レアティーズ、ホレーショの三人の台詞から名誉志向の違いを分析し、ハムレットの名誉志向をより浮き彫りにさせた。(A 5)